

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 5 月 12 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/12 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	20.5	103.4 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	30.3	5.13 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 1.7 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m ³ /h	27.3	0.24 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/12 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.5 °C
2号機	循環冷却システム	停止中	17.6 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	18.9 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	19.9 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドランジンの注入を適宜実施。

【2号機】

・H26/5/12 6:10～ 使用済燃料プール循環冷却設備について、遠隔監視装置の監視性能向上対策を行うため停止中。約 57 時間停止する予定。なお、停止時使用済燃料プール水温は 17.3°C であり、冷却停止時のプール水温度上昇率評価値は約 0.156°C/h で、停止中のプール水温上昇は約 9°C と評価されることから、運転上の制限値 65°C に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題ない。

【3号機】

・H26/4/19～ 使用済燃料プール内瓦礫撤去作業のうち、燃料交換機本体撤去作業を実施。

4/23～ 使用済燃料プール循環冷却系については、使用済燃料プール内の燃料交換機本体撤去作業に伴い、4/23～6月上旬の間、原則毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00 の間停止予定(停止時間は最長で 129 時間、毎週土曜日 16:00～月曜日 7:00 の間は運転予定)。また、水温は運転上の制限値 65°C に十分な余裕を持った 45°C を超えることがないよう、同冷却系停止前のプール水温度を 29°C 以下として管理する。

< 最新の作業実績 >

5/10 15:13 冷却系起動(起動時の温度:21.9°C)

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	3号機タービン建屋	5/1 10:10 ～ 5/10 9:18 移送実施
	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	5/10 10:14 ～ 5/12 9:36 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	4/24 10:34 ～ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/12 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

- *1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。
- *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
4/2 挿入が完了した凍結管について凍結を開始し、4/26に全17本の凍結管の挿入作業、そのうち13本のパッカー設置作業が終了したことから、4/28凍結管全17本の凍結運転を開始した。今後、1ヶ月程度で凍結の壁を造成していく予定であり(6月頃完了予定)、凍結状況については、測温管にて確認していく。
- H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- H26/5/10 10:35頃 発電所構内において、協力企業作業員が作業を終え休憩所に向かう際に、車両のドアに右手薬指を挟み負傷。その後、入退域管理棟救急医療室にて医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断し、同日11:15に救急車を要請。同日13:00に救急車にて福島労災病院に到着し、医師の診察を受ける。
- H26/5/10 9:16頃 所内共通メタクラ(※1)2Bにおいて「所内共通低圧電源系2B異常」警報が発生し、その下流側にあるパワーセンター(※2)2Bにおいて「母線地絡」警報が発生。さらに、パワーセンター2Bにおいて、充電を示すランプ(3相のうち1相)が消灯していること、また、パワーセンター2Bの下流側にある超高压開閉所モーターコントロールセンター(※3)において、「地絡」警報が発生していることを確認。その後、同日10:03頃にパワーセンター2Bの充電を示すランプが自然に点灯したことから、警報リセット操作を行ったところ、同日10:10に全ての警報が復帰。所内共通メタクラ2Bおよびパワーセンター2Bの電圧値には異常はない。警報発生に伴い停止した機器は現時点で確認されておらず、原子炉注水や使用済燃料プール冷却にも影響はなく、モニタリングポストの値に変動はない。引き続き、原因調査を行う。
※1 メタクラ:所内高電圧回路に使用する動力用電源盤
※2 パワーセンター:所内低電圧回路に使用する動力用電源盤
※3 モーターコントロールセンター:小容量の所内低電圧回路に使用する動力用電源盤
- H26/5/12 10:20 双葉郡楡葉町にある資材ヤードで使用している100tクレーンが転倒したと連絡が入った。当該の資材ヤードについては、福島第一原子力発電所構内で使用する資機材等の積み替えに使用している場所。クレーンが倒れた際オペレーターが割れたガラスで手のひらを切ったが、けがの程度は軽く救急車の要請はしていない。
また、クレーンの燃料に使用している軽油が200cc程度漏えいしたとの連絡も受け、本件については、元請会社より双葉警察署(10:30頃)および双葉消防本部(11:16頃)へ連絡。
- H26/5/13 3号機原子炉格納容器内部調査に向けた現場調査計画策定のため、原子炉建屋1階北西エリア(X-53ペネ周辺)の線量測定などを高所調査用ロボットにて実施予定。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【焼却工作建屋の水位・焼却工作建屋サブドレン水の分析結果】

<トピックス>

- H26/4/14～ 集中廃棄物処理施設4カ所(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、サイトバンカ建屋、焼却工作建屋)のうち、3カ所間において、通常使用していない以下の滞留水移送ラインに設置してある仮設ポンプ(4台)が運転中であり、焼却工作建屋地下1階の全域に滞留水が広がっていることが確認されたことから、常設水位計による常時監視ならびに、焼却工作建屋のサブドレン水の分析を強化中。
- H26/5/12 11:50～ 焼却工作建屋への滞留水の流入に関して、5/9 焼却工作建屋への仮移送設備の設置、および焼却工作建屋からプロセス主建屋の移送ラインの漏えい確認が終了。焼却工作建屋滞留水のうち工作建屋側からプロセス主建屋への移送について、5/12 11:50より開始。また、移送開始後に漏えい等の異常がないことを確認。なお、移送については5月下旬頃まで行う予定(移送は平日の日中のみ実施)で、移送中は監視員を配置して常時監視。

<最新の水位>

- ・各建屋内の滞留水の深さについては、常設水位計による監視において、プロセス主建屋への移送後の水位と比較し、焼却建屋では 1.6 cmの上昇。工作建屋については、本日(5/12)よりプロセス主建屋への移送を実施していることから、建屋深さは移送が終了した段階でお知らせすることとし、その間は「移送中」とする。なお、引き続き監視を継続。
- ・各建屋内の滞留水の深さについて大きな変化は確認されていない。

[5/12 14:00 時点の各建屋水深]

焼却建屋:深さ 19.2cm(4/14 移送停止後と比較し、1.6cm 増)

工作建屋:移送中

<最新のサンプリング実績>

- ・大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上